

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0770403590		
法人名	有限会社 TOMO		
事業所名	グループホーム トモ・ハウス		
所在地	福島県いわき市中之作字勝見ヶ浦49-18 (電話) 0246-55-5220		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利字七社宮111		
訪問調査日	平成21年3月10日	評価確定日	平成21年4月28日

【情報提供票より】(平成 21年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 26日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算	8.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	4 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,600 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,260 円	

(4) 利用者の概要(2 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護 1	1	要介護 2	2		
要介護 3	2	要介護 4	3		
要介護 5	1	要支援 2	0		
年齢	平均 85.6 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かしま病院、中山医院、鈴木歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は鉄筋コンクリート4階建ての2階部分にあり、リビング、居室内からは海が見える風光明媚な場所に建っている。近くに漁港があるため、季節の新鮮な魚貝類などを地域住民からいただいたり、事業所で収穫した野菜類を地域住民に配るなどの交流がある。職員の利用者に対する接し方は自然で、利用者の思いや意向が把握されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での改善課題は、全職員で話し合いを行い、改善計画シートを作成し、その上で実践に向けて取り組み改善を行っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者と職員は、評価の意義や目的を十分に理解し、項目事に話し合いを重ねて、自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)</p> <p>運営推進会議は、2ヵ月に1回開催され議事録や報告書が作成されている。出席者からは意見や質問、要望等の発言が出されて、協力体制の基盤もできている。出された意見や要望については、勉強会やミーティングの時に話し合い、サービスの質の向上に反映させている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>事業所では意見箱を設置したり、家族会を通じて、意見や苦情、不安などの把握に努めている。また、家族が面会に来た時なども話しやすい関係を築けるようしている。家族から出された要望・意見等は、全職員で話し合い、サービスの質の向上に反映させている。</p>
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>町内会に加入し、地域の情報などは回覧板などで把握しながら、清掃活動や防災活動に参加し、地域の人たちと交流を図っている。また、ホームの秋祭りには、地域住民の方を招待するなど交流を深めている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりの尊厳を守り、地域で安心して暮らせるよう支援いたします」という事業所独自の理念を管理者・職員でつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングや申し送り、職員の勉強会において、理念に沿ったケアの実践について話し合いし、取り組みを行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の清掃活動や行事にも参加をしている。また、地域の保育所や幼稚園との交流や、毎年事業所で開催している秋祭りには地域住民の方を招待するなどの交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を踏まえ、職員同士で話し合い、改善計画シートを作成して実践に取り組み、サービスの質の向上につなげている。また管理者と職員は、評価の意義や目的確認して全員で自己評価に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、取り組んでいる内容について報告を行い、また取り上げられた意見や要望を職員で話し合い、サービス向上に活かしている。また、その結果を次回の会議に報告するよう努めている。</p>		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用者の健康状態や生活の様子、金銭管理については、ホーム便りと一緒に家族に報告を行っている。面会に来る家族については、その都度口頭でも利用者の近況報告を行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所では意見箱を設置したり、家族会を通じて、意見や苦情、不安などの把握に努めている。また、家族が面会に来た時なども話しやすい関係を築けるようしており、家族から出された要望・意見等は、全職員で話し合い、サービスの質の向上に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>事業所としての職員の離職や異動はなかったが、そのような場合があっても利用者が馴染みの職員から支援を受けられるよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画を作成し、全職員が外部研修に参加できるよう、また内部研修を月1回行うなどの段階に応じた育成が行われている。研修後職員は報告書をまとめミーティング時に報告を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入し、会議や研修会に参加をしている。また、地区のグループホームと連携し、年3回職員同士の勉強会や事例の検討会議や交流を行っており、質の向上に努めている。		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</p>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事など利用者ができることは、職員も一緒に行うなど互いに支えあう関係を大切にしている。また、利用者ができた喜びを職員も一緒に共感している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者と過ごす時間を大切にしており、寄り添いながら表情や行動を観察し、利用者の思いや意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、毎日の申し送りや毎月1回の勉強会などで情報の共有を図っている。また認知症介護研究・研修東京センター方式で、一人ひとりをアセスメントしながら利用者や家族の意向を把握し、職員全員で話し合って介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に沿って日々の記録を行い、いつもと違った行動や様子も変化を見逃さないよう努めている。家族には家族会などで話し合い、医師にもその都度意見を聞いている。介護計画の見直しは、家族や関係者の意見を踏まえ、職員全員で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医とかかりつけ医の受診が継続できるよう支援を行っている。移動が困難な利用者の場合には、協力医の往診を受けることができる。眼科、歯科受診は希望があれば職員が付添い受診の支援を行っている。受診については、希望があればその都度対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対応については、家族等の要望により、事業所で適切な医療を受けながら暮らしが継続できるよう管理者と職員において検討が行われているが、利用者や家族、かかりつけ医との方針の共有はまだ行われていない。		重度化、終末期に向けた方針について、事業所として明確にしたうえで、利用者や家族、かかりつけ医と話し合い方針を共有してほしい。また、重度化や終末期に関する研修会を行うなど、職員の介護力の向上を図ってほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常生活において、またトイレの誘導や入浴など利用者の誇りを損ねないように、言葉のかけ方には注意を払いながら対応している。個人情報事務室に適切に保管・管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の毎日の行動や表情を観察しながら、その日をどのように過ごしたいのかを把握し、一人ひとりのペースを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は買い物や準備、調理や盛り付け、片付けなど利用者一人ひとりの力を活かしながら、一緒に行っている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することが可能で、利用者一人ひとりの体調の把握と希望を確認しながら、ゆったりと入浴ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	食事の準備や洗濯物をたたむ、献立を作るなど利用者一人ひとりが得意分野で力を活かせるように、家族から生活歴を聞くなどして、毎日の暮らしに張り合いがもてるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	日常の買い物で外出したり、近くの公園に散歩に行きながらおやつを食べたり、四季折々にドライブに出かけるなどして、利用者の状況や希望に沿った外出ができるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。玄関にセンサーを設置するなど配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間計画を立て、避難訓練を毎月1回実施している。マニュアルの確認や消火器の使い方、利用者の誘導方法について積極的に取り組んでいる。年1回行われる総合訓練では、消防署の立会いの下、夜間想定訓練も行われており、また職員が近隣住民各戸へ参加と協力の呼びかけを行っているが参加が得られていない。		今後も、近隣住民に対して避難訓練への参加の協力と呼びかけを継続してほしい。また運営推進会議を通して、家族会や地域住民に協力が得られるよう取り組んでほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一週を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養士が作成し栄養バランスに配慮されており、また一人ひとりの嗜好に合わせた食事内容となっている。食事や水分摂取量は個別に記録し管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間は日当たりがよく利用者が集まりやすい雰囲気となっている。加湿器や湿度計を設置し過ごしやすい環境に努めている。すべての共有空間は清潔で、壁には地域住民の手作り作品や行事の写真などが飾られ生活感や温もりが感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者が使い慣れたものが置かれ、それぞれの好みに合わせ、居心地よく過ごせるようになっている。		

は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム トモ・ハウス

記入担当者名 柳内 英俊

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。